浅野誠旅シリーズ 1

沖縄各地 2007-2010

はじめに

私は旅が好きだ、というよりも仕事柄あちこち旅してばかりいた。国内の全都道府県を回ったし、沖縄内でも、たいていのところは出掛けた。

しかし、最近は、以前と比べれば、出掛けることがめっきり減った。訪問要請が減った事もあるが、今住んでいる南城市玉城での生活をエンジョイしているため､出掛けるのがおっくうになってきたことが大きい。

といっても、年に数回、あちこちに出掛ける。

そんな機会に触れたものをブログ記事に掲載してきた。それらを、沖縄各地、日本各地、海外の三つに分けて、旅シリーズとして出していくことにした。

最初は沖縄各地だ。北東から南西への順に紹介していこう。

目次

北部　伊江島、本部・今帰仁、やんばる一周　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２

中南部　読谷・沖縄・宜野湾・西原、首里・那覇、八重瀬・豊見城・南風原・糸満、離島・・・３１

宮古　平良、久松、伊良部、池間、島尻、クウラ、川満、来間、与那覇・・・・４５

八重山　新空港建設地、平久保、裏石垣、川平、小浜　・・・・・・・・・・・・・５４

北部

伊江島

２０１０年６月８～９日、３０数年ぶりに伊江島に行く。伊江村立西小学校でのワークショップ型授業をするためだ。思い出多き旅になった。

昔の記憶が残っていて、渡久地港にいきかける。途中で、道路標識などを見て、どうやら変わったらしいことに気づき、本部港に行く。

後からの話。渡久地港から伊江島行き便が出ていたのは、１９７２年までのことだとのこと。とすると、私が前回、伊江島にいったのは、１９７２年のことだろうか。

右写真は、本部港での**伊江島フェリー**。

遠くから見る**タッチュウ**、近くから見るタッチュウ。雰囲気が変わる。写真はフェリーからとったもの。

私が滞在した２日間、たまたま晴れてラッキーだった。

その日に小学生相手の授業をして、夜は教師たちと懇談会。当初目的を十二分に達成する。

9 日の朝、泊った民宿のまわりを散歩。

葉タバコの収穫中だった。

伊江島農業は、さとうきび、ラッキョウなどだけでなく、葉タバコ、菊などの花卉栽培が盛ん。

島おこしに燃えている感じが伝わってきた。

写真中央の民宿は、泊った「ホワイトハウス」

民宿というより、ペンション・プチホテルといった感じ。きれい。

朝食もデラックス。10 品近くでてきて驚く。

それで、４０００円とは安価。これが伊江島の相場らしい。

午前中、村職員の案内でまわる

写真は、「**アーニーパイルの碑**」。アーニーパイルは戦死した従軍記者

村に住む専門家の案内は「贅沢」だ。

写真は、**伊江島補助飛行場**。
今は使用していないが、れっきとした米軍軍用地だ。
ここは金網で囲まれていないので、車で入れる。
読谷の飛行場跡そっくりだ。
滑走路のまわりは「黙認耕作地」というわけだ。
この後、想定外の光景にであう。

そういえば、行きのフェリーでは、たくさんの米軍家族が同乗していた。

右写真は、**伊江島ワジー**（湧出）。この絶景はすごい。

残波、辺戸、摩文仁、宮古ムイガーなどに比するかそれ以上。この下にかつての水源地がある。

前、伊江島に来た時、塩分を含んだ水にちょっと苦労した記憶が残っているが、１９７０年代末に本島からの海底送水で解決したとのこと。

ところで、伊江島は修学旅行民泊の先駆的位置にあり、有名。この時も、たくさんの修学旅行生が、民泊の地元の人の案内できていた。行きのフェリーもたくさんだったし、島のなかをサイクリングする生徒もたくさん。

一つの大きな産業になり、島おこしの大きな柱になっているようだ。

阿良御嶽（あらうたき）

石に囲まれた拝所の真ん中に城山が見える。

タマグスクなどと共通するものを感じる。かつての港のすぐ前にあり、航海の安全を祈っただろうか

アハシャガマ　住民「集団自決」の壕だ。

１９４５年４月、１００名を超す住民が「集団自決」させられた。小さなガマだ。

詳しくは「伊江村史２」参照

左写真は、**城山**（ぐすく）と**城御嶽**（ぐすくうたき）

神々・歴史・戦争が折り重なる場

城山は、すぐ近くで見ると、ロッククライミングの技術が求められるような感じさえする。

腰を痛めた私に、登ることはできない。

右写真は、城山にある**力（ちから）タンナーバ碑**前から南方向を見たもの。

伊江島の民話。今帰仁から伊江島を攻めてきた軍勢を、力持ちのタンナーバ（玉那覇）が、大きな岩を落として、やっつけた、などといった民話だ。

郷土資料館に行く時間はなかったが、資料館が主催した企画展のパンフ「伊江島の民話」をいただいた。それに、この話が掲載されている。まだ、ほとんど読んでいないが、面白そうだ。

正面の島は水納島だ。その向こうには、恩納・読谷あたりが見える。

城山から伊江島西方向をみる。軍用地が多い。

沖縄戦の激戦地の一つが、この城山を含めた伊江島で、住民の半数が命を失った。

生き残った住民を慶良間に移住させ、その間に３本の滑走路を始め、大規模な基地が作られた。

前の写真をとった直後に、飛行機が演習場の上にさしかかったと思った途端、パラシュートが下りてくる。

米軍のパラシュート降下訓練だ。携帯カメラでとったが、小さすぎて、とらえきれない。

島の東部へ移動して 10 分足らず後、再び訓練に出会う。今回は、近い距離なので、写真に撮れた。

10 人ぐらいが下りてきたが、写真では７，８人が見える。

伊江島の人の話だと、彼らは、フェリーに乗って帰るのだそうだ。

伊江島土地を守る会の団結道場

パラシュート降下訓練を近くで見たのは、この場所だった。

米軍基地に対する闘争で、今や伝説と言ってよいほどになった場だ。

ニィヤティガマ

海岸沿いの巨大なガマで、千人収容できるということで、別名千人ガマ。

避難壕であるとともに、聖地で信仰の場である。

かなり古い信仰の場であることは、別の本で読んで知っていた。

芳魂の塔

伊江島のたくさんの戦死者を祀る。

塔の右側は城山

　写真には写っていないが、さらに右側には、住民・日本兵の氏名を刻銘した碑。

　摩文仁の平和の礎に似ている。

　「〇〇の子ども」という形で、名前が記されていない例がある。出生直後なのか、名前が判明しなかったのか。

伊江島ハイビスカス園のハイビスカスはすごい。

１０００種だそうだ。初めて見るものがいっぱい。

海洋博公園にも出しているとのこと

新種づくりに精を出しているそうだ。

西小学校の玄関前には、たくさんの花々が美しさを競っている。その中で、私の知らない花を見つけた。

この花を育てるのを指導しておられる先生を含め、どなたも名前をご存じない。

アマリリスの仲間だと推理するが、ヒガンバナにも似た花だ。

どなたか、ご存じないですか。

本部・今帰仁

本部の海洋博公園には、年に一回ほど出かける。熱帯ドリームセンター中心だ。合わせて、北山城址や八重岳の花見などをする。

右の写真は、２００８年８月１５日撮影の**熱帯ドリームセンター**展望台からのものだ。

２００９年１１月２２日には、海洋博公園内の**都市緑化植物園**を見る。公園南ゲート近くだ。

左の写真は、都市緑化植物園の正面にある花の「ボール」？

午前中だったからか、１時間に出会った人は数人だった。連休中なのに。午後戻るときは増えていたが。ここの駐車場、南ゲート駐車場も、むろんガラガラ。

ここは、庭づくりの学習材料がいっぱいだ。

都市緑化植物園内の**ハーブ園**。

立派に手入れされている。馴染みのハーブが多いが、勉強になることも多い。

海洋博公園の帰り道に**北山城址**に行く。３０年ぶりの訪問。

以前の荒々しい山城の雰囲気は減って、観光スポットとしての整備がすすむ。

隣の今帰仁村歴史文化センターも充実の整備だ。

訪問者たくさん。３０年前の１００倍といった感じ。

隣人とばったり出会う。門中でうがんにきたとのこと。そういえば、玉城では、今帰仁うがんの行事をするところが多いと聞いていた。

やんばる一周

２００８年１０月３０日から一泊２日で、ヤンバル旅に一人で出かける。アメラジアンスクール・イン・オキナワ校長を退任して、しばし休養していたころだ。

出かける前日、次のように書いた。

明日、ヤンバルへと向かう。仕事ではなく、ただの旅だ。とくに国頭村の東海岸を楽しむつもりだ。

ヤンバルに長く住んでいた人の情報では、奥や安田などに一晩泊まった方がいいとのこと。そして、結構混んでいるので、予約が必要とのこと。ぶらりと行き当たりばったりのつもりだったが、そのアドバイスに従うことにした。そこで、まだ泊まったことのない安田の民宿に電話をしたら、二軒とも満員。そこで、こんなところにあるとは知らなかったホテルに泊まることになる。

私の東海岸のイメージは、３０年前、ないしは２０数年前のもの。７０年代の後半、琉球大学の教科教育の先生方といっしょに複式学級指導法の検討をしていたが、その際の実地見学ということで、訪問したこともある。そのときは安波に泊まったと記憶している。

そんなころに、もう一回旅しているが、東村の高江から安波に向かう時、急坂を登り切るのに苦労した記憶もある。そして、当時「未供用区間」と書かれていた個所に着いたが、地図上は道があるし、戻るにもどれない感じだったので、通っていったが、途中で米軍のジャングル作戦訓練中の隊列に出会ってびっくりしたこともある。

そんな記憶があるが、もう３０年もたったので、大きく変わったことだろう。ホテルがあるなどとは信じられない。ホテルを予約したとはいえ、行き当たりばったり的な要素は残しているので、どんな旅になるか、はっきりしないところで、楽しみを広げたいと思う。

最初に立ちよったのは、許田の道の駅。そして大宜味の道の駅。

そして、この芭蕉布会館。作業場見学をする。

そこで芭蕉布の財布を見つける。私の財布は、１０年ほどに前に買った有松絞のもの。磨り減ってしまったので、新たなものを探して、２～３年になる。

ついにここで見つける。芭蕉布だけに結構な値段だ。それにしても、大切にしていきたい。

辺戸岬

２、３０年ぶりの訪問。１９６０年代から７０年代にかけての沖縄闘争時代を思い出す。

辺戸岬から**与論島**を見る。かつて与論島と辺戸の間にある２７度線が、大きな壁となっていた。

辺戸岬の公園も広く整備されている。

右の写真は、辺戸岬の海岸　東シナ海側の海岸。静かな日でも、荒々しさを感じる。

辺戸岬から**アスムイ（安須森）**を見る

辺戸岬のすぐ南側。

アスムイは重要な聖地。ヤハラヅカサなどの玉城とならんで、沖縄創世物語での重要な個所。

かつて船で本土から沖縄に近づいた時、最初に見える景観で、感慨深いものだった。私も、１９７２年４月沖縄に船できたときには、この印象が強烈だった。

金剛石林山　（石林山公園）

聖地あすむいがあるところ

石林山というから、どこだろうと思っていたら、まさに「あすむい」そのものだった。「あすむい」についての説明はほとんどなかった。まわるコースの途中に重要な儀式の場所で立ち入り禁止の個所があった。

聖地と観光地の関係は微妙だ。でも、なんらかの説明があったほうがいいと思う。岩々の説明が、「烏帽子」「悟空」「ゴリラ」などと名付けられていたのは、私には興ざめだった。おそらく聖地での名前があったと思うが、それらから名前をとることができなかったのだろうか。

あすむいから辺戸岬を見る

この写真は、コース途中の展望のよい個所からのものだ。

御願ガジマル

石林山めぐりにはいくつかコースが設定されているが、その一つに「森林コース」がある。そのなかに、このガジュマルがある。実に巨大だ。一つの広場全体をガジュマルの根が占拠しているといった感じ。

「御願」ガジュマルと名がつけられているのもわかる。何をお願いしようと考えたが、とくには思いつかなかった。なんだか、「無心」に見るしかなかった。

激しいセミの音の中を、コースを歩く

計画性が低い旅なので、行き先で見つけたところへ行く。辺戸の案内掲示板に、「**辺戸蔡温松並木公園**」というのがあったので、行くことにした。国道５８号線から入るのだが、そのあたりに行っても案内板がない。そこで、行きつ戻りつして、それらしき入り口を見つける。入っていくと、すぐに草むら。戻ろうかと思ったが、ともかく入っていく。

すぐに、大きな松がたくさん。そして、辺戸の集落に入る。集落を横切って、松並木は続く。草ぼうぼうでそれ以上はやめようという気になるところで引っ返す。その途中途中で写真をとる。

１８世紀前半蔡温が政治的中心であった時代の一つとして、松の植林事業があった。今やその大半は見られないが、今でも残っている珍しい例である。樹齢が３００年近いので、なかなかの立派な木々である。

安田集落遠景

２０～３０年以前、東海岸は何回か行っているが、なぜか安田は訪問していない記憶だ。静かな集落だが、なにか活気のようなものを感じた。

国頭村発行の公式ガイドブックに、安田一週散歩コースが書いてあった。といっても、ゆっくりまわって２０～３０分ぐらい。途中クイナの保護センターがあって、覗き窓からクイナを見るが、見えず。

国頭村営バス安田停留所

一日３本ほど

翌朝すれちがった。かわいいが大切なバスのようだ。

安田協同売店

最近、共同売店がいろいろな話題になっている。

この売店は、「協同」となっている。

安田の伝統行事の場の一つ。

公民館広場のなかにある。

安田のマングローブ林

立派なものだ。以前、マングローブ植林運動が各地でなされていた。私の友人も中心的な一人だった。

ふと、私たちの近辺も可能なのだろうか、と考えてしまった。

やんばるホテル＆ファーム

宿泊先。２号線沿い、安田入り口にある本格的なホテル。ホテル裏側には、農場が。散歩で見学。夕朝食も、健康志向のもの。

安波のマハンタから太平洋をのぞむ。安波節を聞きながら。スイッチを押すと音楽が流れる。安波節の最初の一節は、この場所のことだ。

安波集落

集落の南側にある『安波ヒラバンタ公園』から写す。この公園も「国頭村観光ガイドマップ」で知る。入り口が見つからず少々苦労した。３０年前訪問したころには、何軒か茅葺き屋根もあったが、今は見当たらない。

安波に入る前に、タナガーグムイに立ち寄ろうとするが、急な崖をロープを伝って下りなければならないので、断念。入り口に「毎年、ここで事故で死者も出る」と看板が立ててあるので、少々こわくなったのも事実。

安波ダム

ここは初訪問。

やんばる学びの森

安波ダムを少しいったところにある。米軍の北部訓練場の一部返還にともなって、国頭村がつくったとのこと。

ここのネイチャートレイルは大変いい。全部歩いて９０分ほど。深い森、森のなかの池、見晴らしがきくところ、などなど、ヤンバルの森をガイドなしで、自分で楽しめる。他に歩いている人にはまったく出会わなかった。のんびりと楽しんだ。

やんばる訪問の最大の楽しみの一つはこれだ。４～５年前に、ガイドをしている卒業生の案内でヤンバル歩きをしたが、その時を思い出した。

施設職員も何人かいて、次の日の行事の準備にあたっていた。オートキャンプ場もある。　国頭村環境教育センター「やんばる学びの森」というのが、正式名称。安波ダムの近く。

そのネイチャートレイルを歩いたが、左写真は、寝ころんで空に向かって森を写す。

ネイチャートレイルの後、東村に入り、ヒロコーヒーファーム、メローグリーンたかえ、サンライズひがしに立ち寄る。その後、福地屋で昼食。工事関係者のお客さんがほとんど。道理でボリュームたっぷりだ。

そして、東村立山と水の生活博物館。ここでは、生きたヒメハブ、ハブ、アカマタが並べてある。

メローグリーンたかえ　右写真

ハーブ専門に育てているところだ。訪問客は春に多いそうだ。その時間訪れていたのは私だけ。忙しい作業に追われているようだったので、いろいろと尋ねたかったが今回は遠慮した。

サキシマスオウノキの板状根

その後、写真のスオウノキに立ち寄る。沖縄本島では最大とのこと。

ところで、いたるところで、ヤンバルクイナのことが書かれている。こんな書かれていると、すぐにでも出会いそうな気配さえ感じる。交通事故が多いので、注意喚起のためだろう。以前ならノグチゲラだったが、今はほんの少し書かれている。やんばるの動物のイメージも様変わりだ。

福地ダム　右写真

展望所からダム湖をみる。

福地ダムからやんばるを横断して大宜味に向かう。地図を頼って進む。道路標識による案内はない。それにしても立派な道路。村道なのか林道なのかはよくわからない。標識がないのは、一般車両の進入を歓迎していないということなのかな。すれちがう車も工事関係車両が多い。なかには、自然保護職員の車もあった。

地図上は、石山展望台と書かれているところで、景観を見る。といっても、ほんとうに石山展望台なのかどうかはわからない。そこにも展望台名は書かれていない。駐車が何十台もできる立派な展望台だが。

同じ場所で、太平洋と東シナ海が見られる。

上の写真は太平洋。下の写真は東シナ海。

この先の道は、ともかく道なりに行く。地図によって道の表示が異なるので、まさに道任せだ。結果として、塩屋の近くにでた。

大宜味から**古宇利**まで直行。初めての古宇利訪問。橋ができたので容易に行ける。それがよいのかどうか、議論があるところではあるが。若者たちの訪問者が大変多かった。

上の写真は、島の漁港あたりから大橋を見る。

島を一周し、島の中央てっぺんに行って、多野岳あたりを眺める。左の写真だが、島の一番高いアマジャフバルには、だれもいなかった。ここは、かつては遠見台でもあったようだ。

帰りに、橋をわたって屋我地に入ってすぐのところから、古宇利をふりかえって下の写真をとる。

ヤンバル旅、車の走行距離は、３９０キロメートルになっていた。

今回訪問した個所はほぼすべて、初めてか、２０年以上ぶりのところだ。第一感、道がよくなって、かつてと比べると、半分以下の時間で行動できるということだ。そして、ヤンバルを訪れる人の数がすごく増えた。平日ということもあってか、観光客はほとんどが本土からの人たちだったということも特徴だろう。変わらないのは、ヤンバルに暮らす人々の数。南部のようにたくさんの人がいるのではないところが、いい。

観光案内図におすすめコースとして書かれている道はわかりやすいが、そうでない道とかスポットには、案内標識がないか少ないのは、以前と同じ。そのほうがいいかもしれない。

もう一つ自然環境へのアクセスがとてもよくなった。それがいいことかどうかわからないが、ともかく、一人でも歩ける自然が多くなった。

最近の私は、ノンビリ運転だ。それでも、８時過ぎに玉城を出て、許田と大宜味の「道の駅」に立ち寄り、野生生物センターにも立ち寄ったが、辺戸岬には１２時前に着いている。

以前なら考えられない。道路がすごくよくなっている。くねくねとまがりくねった海岸道路がすくなくなって、トンネルが増えている。

辺戸でも石林山、松林で時間をかけて、３時前にスタートし、途中、伊部と安田経由だったが、安田の丘の上のホテルについたのは、４時前である。途中で、海岸の崖上からの絶景を見るつもりだったが、それらの横を通る道はショートカットされて、見どころがどこだったか見当もつかない。

かつてのように奥から安田までの間にすれちがう車の台数は１～２台というのとは異なって、増えてはいるが、それでも１０台もすれちがってはいない。途中、動物注意の標識にひんぱんに出会う。とくにクイナへの注意が多い。でも、出会うのは、もっぱらカラスばかり。カラスのなんと多いことか。カラスを見かけるのが年に１～２回の玉城とはまったく違う。

道路がよくなっているのは、国予算の公共工事の「おかげ」なのだろう。こうした公共工事・補助金依存型経済から、どのようにして脱却していくのだろうか。そうしたインフラ整備は、地域の発展のきっかけであって、地域発展そのものではない。そうした地域発展のソフト面の展開が期待される。

その意味では、エコツーリズムの展開や、特産品の開発などは、一つの重要なアプローチであろう。地域の歴史的な文化・自然を基盤にし、新たな挑戦がどのように展開しているか、知りたいものだ。

今回の旅で、いくつか地元産品の販売所も訪問した。「道の駅」が、これまで知っていた「許田」「国頭」だけでなく、「大宜味」にもできていた。東村には、「サンライズひがし」というのがあった。

各所とも、いろいろ工夫をしている。地元以外の沖縄産品がかなりの比重を占めているのが実情だが、地元産品もかなり増えてきているという感じだ。

「東村商工会公式ガイドブック」をいただいたが、かなり充実した内容で、東村の最近の工夫が紹介されている。同じように、「国頭村観光ガイドマップ vol.2」「グリーンツーリズムおおぎみガイド」なども興

味深いパンフレットだ。こうしたパンフレットが、実際に使い甲斐のあるものとして、どんどん発展していくことが期待される。

私自身の考えでもある、第一次産業、第二次産業、第三次産業が結びついて、「観光」とかかわっていくという道は、大きな流れになっているように思う。その点で行政主導の要素がまだまだ高いようだが、地域の自主的な動きを引き出していくきっかけとして大切といえよう。

環境庁の施設でもある「野生生物保護センター」にも立ち寄ってみた。なかなかすばらしい展示などだが、最新版へと更新されていないのが残念だ。

国の施設が、住民たち訪問者たちによる共同利用・共同創造へと発展していくことが大切だと思うが、ほんの少しの訪問ではよくわからなかった。それでも、かっての卒業生である小学校教員から以前に相談をうけたこともある、野生生物保護のための小学生が作成したパンフレットが置かれていて、なつかしい思いをした。

いろいろ

２００７年５月、名桜大学の教職をめざす学生たちのサークルと人生創造ワークショップをした。夜、学生たちと泊まったところは、ヤンバル東村の慶佐次。すばらしいマングローブ林が復活。朝の散歩でエンジョイした。次の機会にはカヌーでと思ってしまう。

懇親会・宿泊会場は、これまたすばらしい古民家。いろりがすばらしい。この上に大きなナベをかけて、エンジョイ。沖縄にいろり？なんて思ってしまうが、すてきに雰囲気をつくる。１００年近くなる瓦の家が、現実に生きている。こんな雰囲気だから、学生の話はぐんぐんはずむ。各々の生き方のこれまでとこれからが創造的にすすむ。

もう一つステキなことは、学生たちがよく働くことである。だれかに任せきりにして手抜きするものがいない。朝私が散歩にでかけるころ、かれらはまだ眠っていたり、まだ語り合ったりしていた。帰ってみると、後片付けすべて完了。こんなによく働く若者に出会うのは久しぶり。

２００８年１１月離島フェアで購入したのは『照島』。伊平屋の酒だ。２０年前、この酒ばかり飲んでいた。久しぶりの出会いだ。

本島の酒が平準化されて〔まろやか〕になり。個性が薄れていった８０年代。そのなかで離島のいくつかの酒は個性を残していた。その一つが『照島』だ。

試してみると、２０年前と変わらない。コクがあるというか、独特の甘みと辛味が混ざっている。

離島フェアの出品のほとんどが地元産の食材の加工品が多いことに特徴がある。だが、離島おのおのの特徴を出すという点では、いろいろと苦労しているようだ。

中南部

読谷・沖縄・宜野湾・西原

２００８年６月２８日、**読谷**村社会教育課主催の、生涯学習ワークショップで訪問。

写真は村役所展望台から南方を見る。

同じところから嘉手納基地方向を見る

２０１０年元日、ドライブ途中に訪問したのは、

座喜味城址

２００９年８月１３日、日韓合同授業研究会の会場となった、くすぬち平和文化館。コザにある美しい建物だ。

２００９年１月**宜野湾**北部の知人宅を訪問。ベランダから北谷の美浜方向を眺める。

私はこのあたりはとても疎い。２０年前の景観とは全く異なる。かつてのハンビー飛行場、その北側が、全くの都市になっている。

その向こうの読谷・残波あたりはかすんでしまう。

同じ知人宅から、東シナ海を見渡す。太平洋を見渡す我が家とは全く異なる景観。海を見渡せる景観を人々は愛するが、沖縄には、それぞれのところにそれぞれの景観がある。

２００９年６月１２日、西原町史執筆準備のため、立派な**西原図書館**を訪問。

昔住んでいた小波津団地からそう遠くない

首里・那覇

２０１０年１月、何年ぶりかのハーバービューホテルを訪問。卒業生が勤めていたこともあって、３０年以上前にはよく利用した。友人の結婚式の演出司会もした。

本屋への帰り、恵美子と落ち合って高級バイキングを味わう。私の「快気祝い」だということにする。

久しぶりの都市文化だ。

実は、この場所にきた最初は、１９７１年１１月。当時は、ハーバービュークラブといって、米軍高級将校クラブだった。日本人で入れるのは特別の人だった。就職依頼・相談したかたが、私たちをここに呼んで、食事をしたのだ。メニューが英語で、さっぱりわからなかった。カルチャーショックの日だった。

いろいろドラマティックなことが続いて、私たちが沖縄生活を始めたのは、翌１９７２年４月のことだった。数年後、ここがハーバービューホテルになったのだ。

この頃では、全く縁遠いところになってしまった。

２００９年４月三線演奏のある沖縄そば屋による。モノレール首里駅前の「くんち」。博物館の帰り道による。きさくな会話のなかで。そばもなかなかだ。

八重瀬・豊見城・南風原・糸満

２０１０年２月、**具志頭**在の珈琲三昧ポエムで、大城ともやさんの歌を聴く。

２００９年３月２０日、**瀬長島**「空の駅」でウージ染めの展示即売をしていた。

室内に入って、息を飲む美しさ。緑の鮮やかさ。

さまざまなウージ染め作品が並ぶ。

ケータイカメラでは、緑色がとても淡く出ているが、原色は、緑一色という感じ

ウージ染めのタペストリーを購入。
「アトリエ色彩…新垣幸子」作。
タイトルは「ゴーヤ」。
買ってしまう。書斎を飾る
ウージとはもちろんサトウキビのこと。

２００９年３月。道の駅**豊崎**（糸満バイパス沿い）。
農協女性部のレストラン。安くて結構美味しい。とくに餃子。３種類の店が並ぶ。
他に農産物・加工物の販売。

２００８年１１月１４日、たまたま立ち寄った**津嘉山**公民館。公民館も立派だが、シーサーも負けない。私たちの中山集落と比べると、人口で３０倍だから、公民館も、中山集落センターとは雲泥の差。

うまく写っていないが、シーサーがすごくて、写真にとった。

２０１０年1月１２日、**摩文仁**から**ギーザハンタ**を見る。

さらに向こうには、知念半島、久高。平和祈念資料館展望室からは我が家も見える。

平和の創造の森公園

左の写真は、２００８年１月２６日。

右の写真は、２００８年５月３１日

糸満観光農園は、我が家から車で１０分少々と近いからしばしば行く。特に年末恒例になったイルミネーションには、毎年のように行く。まず、２００７年１２月にとった写真を紹介しよう。

以下は、２００８年１２月撮影のものだ。
２００７年のものは全国レベルで表彰されたとのこと。
今年も県立芸術大学の学生たちのデザインによるとのこと。
昨年はメインが一カ所だが、今年は２ヶ所に。昨年以上の美しさだ。

以上はケータイ撮影、ここからはデジカメ撮影だ。

右の写真は夕焼けとのツーショットだが、なかなかいい。

ふと思う。これだけの電気代は大変なんではないかと。ＣＯ２排出問題に逆行しているし。施設内の風車の発電も、施設用電気の補助で使用しているというが。

このごろ、このイルミネーションが、個人宅でも流行っている。私個人としては好きではない。個人宅ですると、近隣にも明るさが影響を与えてしまうのではないか、とも思う。

私が、イルミネーションをはじめて見たのは、カナダの、隣家と１００メートルぐらいは離れている田舎でだ。あたりが雪で覆われるなかのイルミネーションは幻想的だった。でも、都市のなかや、住宅がひしめきあっているところでは、気になる。

だから、個人宅よりは、こういう公共の場に集めてやるのがいいのではないか、と思う。今回は家族と出かけたのだが、ひとりが、「札幌の雪祭のように、チームを組んで、作成したらどうか」といったが、いいアイデアだと思う。デザインを公募してやってみるのだ。

糸満観光農園では乗馬体験もある。
２００８年５月の写真

離島

２００８年１１月２２日、コンベンションセンターで開かれた離島フェアに出かける。

物産販売場と言う感じだ。

そこで購入したサトウキビの酒。南大東産で、「コルコル２５」という名前のラム酒。

この日が新発売日だった。

宮古

恵美子の生まれ故郷の宮古には、年１回か２年に一回程度、訪問している。ここでは、２００９年と２０１０年の訪問を紹介する。まず２００９年１月の訪問だ。

写真は、カママ嶺から見た**平良**市街地だ。

カママ嶺は、市街地に近い小高いところで、公園化されている。

公園には巨大なシーサーがある。

子どもたちが１０人以上いっしょに遊べるシーサーだ。

平良港では、朝の７時０分から魚の朝市だ。マグロとカツオ。漁港で名高い、伊良部島の佐良浜の人たちが店を出している。新鮮な魚。この他にはセイイカもでていた。夕食に食べる。新鮮な魚はうまい！　翌朝、那覇に帰る時、立ち寄って、みやげにもう一度購入。

左写真はなまりぶし
同じ朝市で購入。
半乾き状態のもの。
食べ方はいろいろ。

宮古病院

お見舞いで訪問。築年数 40 年ぐらいか。
何故か親しみを感じる。４０年くらい前の公共建築は、こんな雰囲気のものが多い。移転計画があるらしい。

久松漁港

３０数年ぶりに訪れる。宮古には多くの漁港がある。

ここは、日露戦争時の「久松の五勇士」の逸話でも知られている。

ロシアの軍艦が航行しているのを久松の漁民が見つけ、それを石垣の無線局まで知らせるために、サバニを漕いでいったという「軍国逸話」だ。

左写真が記念碑で、五本の支えの上にあるのが、彼らが漕いだサバニの形

伊良部島と架橋工事。

左側から海へと工事が伸びている。右側が伊良部島。

カママ嶺公園から写す

ずいぶん長い橋のようだ。

工事中の橋の宮古島側のたもとから見る伊良部島

上の写真を撮ったところのすぐ側の海岸。寒い日とは思えない。

架橋工事の宮古島寄りの写真

下は、伊良部島方向へと伸びている工事伊良部島側からも工事が進んでいるようだが、写真ではうまくとれなかった。

次からは、２０１０年２月の訪問の際の写真

池間大橋脇の海岸に流れ着いたたくさんのブイ。その場で、ブイアート描きとなった。昨年、大神島訪問の際、大量に見つけたが、今年は池間大橋脇で見つける。姪たちがやっている土産物屋の近くで描く。観光客が何人も珍しそうに見ていく。

池間大橋。池間島側から撮影

池間から**大神島**を見る

島尻マングローブ林

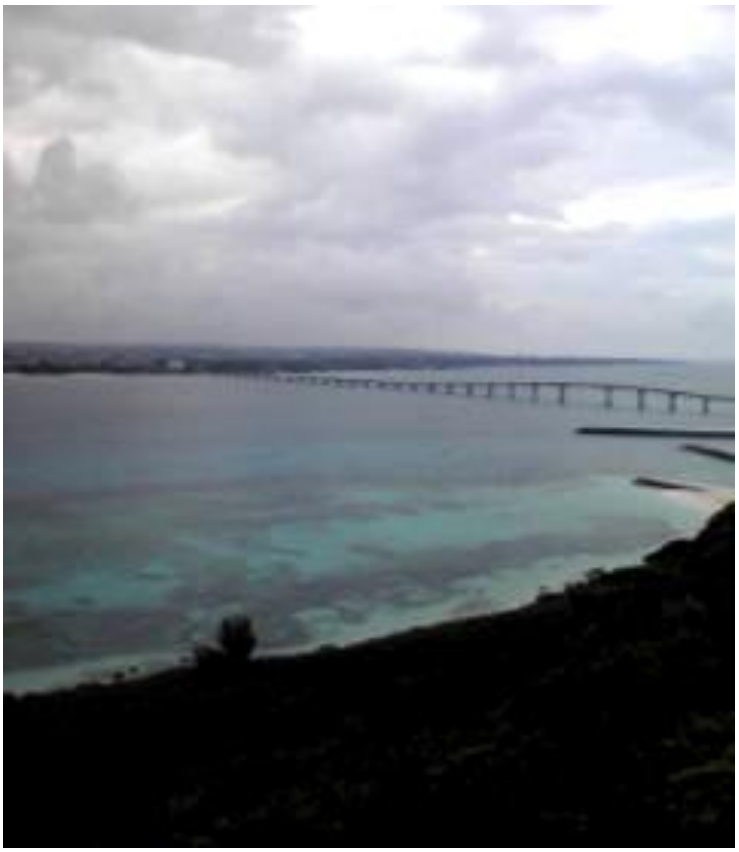
クウラ海岸　インターネット情報で、クウラを見つけ　た。砂山に近いところだが、知られていないので、他に人はいない等しい。

クウラ海岸のすぐわきに、比較的新しく、個人が開いた拝所がある。

あたらす市場、宮古島のファーマーズマーケット

川満のウプカー（大川）

川満のマングローブ林



来間展望台から宮古島を見る

長崎ふれあい遊歩道入口から来間大橋を見る

池の御嶽

海岸沿い遊歩道脇で出会う

与那覇海岸

遊歩道から海岸にでて歩く

このあたりを歩く人はめったにいない

私達も初めて

宮古は、たいていのところは回ったつもりだったが、今回の長崎遊歩道、島尻と川満のマングローブ林、そしてクウラの浜ははじめてだ。

宮古にも、知らないところが結構あるもんだ。でも、多良間はまだだ。次回は訪問したい。

義姪から「すっかり、おじいさんになったね」と繰り返し、言われてしまう。姪も５０歳近くになるのだから、不思議はないが。

八重山

２００９年１０月、講演・ワークショップのために八重山にでかける。知人・旧友がいろいろと案内してくれる。その際に写した写真を紹介しよう。前回の八重山訪問は、１９９０年の初めだったから、２０年ぶりということになる。

まず石垣島一周。

写真は、石垣市立**川原小学校**。全校 13 名

建設中の**新石垣空港**

土地造成進行

新空港建設は、賛否が激しく論議されていた。十数年間沖縄を離れていたので、その後の経緯はわからないが、今建設中だ。

玉取展望台より**北部**を見る。

八重山には数度いったが、これより北にはいったことはない。３５年ほど前は、この先は道も整備が十分ではなかった。

石垣最北の**平久保**風景。灯台

北部には、戦後、沖縄本島や宮古、あるいは八重山離島からの移住者が、開拓農民のようにしてきたという話を聞いている。私が住む玉城の中山からもおられるようだ。道路沿いの案内図には、どこかで聞いたような屋号をみた。

小学校もいくつかあるが、小規模校だ。ある小学校の元校長さんが、一人乗りの自転車競技で、子どもたちの活躍舞台をつくった話をしてくれた。全国レベルの実力だとのこと。

右の写真は、灯台からの光景。石垣島は風景が豊かだ。起伏に富んでいる。地学学習にもってこいという感じがする。

裏石垣

野底マーペー。強制移住秘話が伝わる

このあたりの学校の教頭にかつての教え子がいるという話を後から聞いた。八重山にも、教え子や知人たちがいろいろな形で活躍している。

次は、**米原のヤエヤマヤシ群落**。

３５年前にここまできた記憶がある。当時はうっそうとしていた感じだったが、今はよく整備されている感じ。近くに佐竹利彦ヤシ記念館があり、その屋上から撮影

川平湾

３５年ぶりの川平湾は、変わらず美しい。

裏石垣には、「あかぬけた」新築の家々が並ぶ。観光客相手のお店も並ぶ。

南城市の光景とはかなり異なる。

移住のあり方が、論議を呼んだりもするが、ここが一つのタイプだろう。

このあたりのアパートを借りて、市街地に通勤する移住者も多いとのこと。

右の写真は、**吉原**あたりの光景。

石垣中心市街地から港を見る

たくさんの出会いで充実した八重山滞在だった。

30 年ぶりに小浜の知人に会い、小浜に生まれ育った彼に、島を案内していただく。

小浜島から**西表島**を見る

小浜で一番高い大岳からの展望。

写真は西表。西表はすぐ近くだ。

鳩間も見えた。

小浜の五つの顔。

自然

豊かな農漁業

神と芸能

観光

教育

こんな話のなかに彼の小浜への思い入れの強さを感じる。来年には、竹富町史の小浜編が出るとのこと。そこにはいろんなことが網羅されているようだ。

写真の松は、明和の大津波を生き残ったとの伝え。以前はもっともっと生い茂っていたとのこと。戦前の島は、松並木もあり、すごく自然豊かな光景だったとのこと。

写真は、集落風景だ

写真は、島の南方向だ。

豊かな田畑が広がっていたことがよくわかる。今は、観光施設、遊休農地が多いが、そこでも農業を頑張っている人も多い。若者が農業でも頑張れるよう条件ができることを期待したい。

知人は、水田復活に奮闘。下の写真あたりを何人かの仲間とともにしておられるとのこと。

小浜の聖地も案内していただいた。上の写真は中山御嶽。

下の写真は、東山御嶽。ここは芸能の場でもある。広場に仮設舞台がつくられるとのこと。芸能の話、神々の話が生き生きと語られる。神々と政治支配の話も聞く。

ここの芸能にはいつか見たいし、神々の話ももっと聞きたいと思う。

今回は時間の都合もあり、小浜入門だった。次回は、「本格小浜」にしたい。